

Genzo AI 深掘り調査レポート（知財業務自動化 SaaS）

エグゼクティブサマリー

Genzo AIは、株式会社島津製作所¹が自社の知財部門で開発・運用してきた「知財関連業務の自動化プラットフォーム」を外販するため、株式会社IP Agent²と共同で2026年4月1日に設立予定の子会社（島津90%出資）です。³

提供予定のSaaS「Genzo AI」は、明細書作成（発明届・書類作成支援）、特許翻訳、中間処理（拒絶理由通知対応）、先行文献調査、FTO（侵害予防）、契約書レビューまでを“実務直結”で支援する構成で、利用者数無制限・年間契約（希望価格100万～1,500万円、基本料金＋従量課金）を公表しています。⁴

最大の特徴は、島津知財部が掲げる「ベテランの思考プロセス（暗黙知）をAIプロンプトに変換する形式知化」思想を前提に、Human-in-the-Loop（AI提案を人が確認・修正する運用）で設計している点です。⁵一方で、対外的に確認できる範囲では（現時点で）「外部監査済みのセキュリティ認証（ISO 27001等）」「具体的な導入顧客・定量KPIの第三者検証」「ユースケース別の精度評価」「知財管理（期限管理・年金・権利維持等）まで含むフル機能の明示」などは未公表であり、投資・採用判断には追加の一次情報が必要です。⁶

主要クレームと信頼度（主に一次情報ベース）

主要クレーム（要約）	根拠（一次情報中心）	信頼度	不確実性・注記
2026/4/1にGenzo AIを共同設立、島津90%・IP Agent10%、資本金5,000万円、役員/顧問の氏名	島津プレスリリース	高	設立“予定”であり、登記簿・法人番号等の公的登録は設立後に要確認。 ³
SaaS「Genzo AI」の業務範囲（明細書作成、翻訳、中間処理、侵害予防、契約レビュー等）	島津プレスリリース、公式サイト	高	“どこまで自動化されるか（人手介在点）”の細部は要追加資料。 ⁵
価格：年間100万～1,500万円、基本料金＋従量課金、ID数無制限	島津プレスリリース	高	実際の見積は規模・利用量・モジュールで変動可能。 ³
社内導入の効果（外部コスト8,000万円削減、発明届出工数50%削減、他社特許スクリーニング手作業90%削減等）	島津プレスリリース	中（「公表事実」は高）	“効果の再現性”は顧客環境で未検証。定義（母数・期間・比較条件）も未公表。 ³
セキュリティ方針：OpenAI/Gemini API使用、学習・二次利用の契約上禁止、送信データ最大30日保持の場合、国内AWS保存、運営者アクセス不可設計	公式セキュリティページ	中～高	“運営者アクセス不可”の技術的担保（鍵管理/監査ログ/例外運用）や第三者監査の有無は未公表。 ⁷

主要クレーム（要約）	根拠（一次情報中心）	信頼度	不確実性・注記
外部LLMの保持期間の一般仕様（OpenAI APIログ最大30日、Geminiの30日保持条項等）	OpenAI/Google公式ドキュメント	高	Genzo AIがどの機能で“Grounding等”を使うかは未公表。 ⁸
市場：IP管理/知財ソフト市場は中長期で成長（各社予測で幅あり）	調査会社サマリ	中	市場定義の差が大きく、数値は“レンジ”として扱うべき。 ⁹

会社概要と設立背景

島津製作所によれば、同社知的財産部が独自で開発・運用してきた知財業務自動化プラットフォームを外部提供するために、2026年4月1日付で新会社「株式会社Genzo AI」を株式会社IP Agent²と共同設立（島津90%出資）します。³

所在地は京都市中京区（島津製作所本社内）、事業内容は知財業務自動化SaaS「Genzo AI」の開発・販売および知財コンサルティングです。³

設立・資本・経営体制（公表範囲）

以下は島津プレスリリースに明記された事項です。³

項目	内容（公表情報）
設立	2026年4月1日（共同設立予定）
資本金	5,000万円
出資比率	島津製作所90%、IP Agent10%
所在地	京都市 ¹⁰ 中京区 西ノ京桑原町1（島津製作所本社内）
代表者	川村亮太 ¹¹ （島津製作所従業員）
取締役	坂本聡 ¹² （取締役執行役員営業担当、IP Agent代表取締役社長）、阿久津好二 ¹³ （社外取締役、島津製作所知的財産部長）
顧問	長澤健一 ¹⁴ （元キヤノン株式会社 ¹⁵ 知的財産法務本部長 等）

「会社登記・法人番号」等の公的レジストリ情報

2026年3月26日（日本時間）時点では、設立前であるため、登記簿（履歴事項全部証明書）、法人番号（国税庁公表サイト/gBizINFO¹⁶ 等）の一次確認は今後の調査事項となります（未公表・未確認）。¹⁷

背景：社内開発→外販への転換（クライアントゼロ型の商用化）

島津は、知財業務の多岐化・属人化・技術承継を背景に、知財部門で「ロジック化可能な知的労働は生成AIに置換する」という方針のもと、2023年から社内向けに「Genzo AI」を開発・活用してきたと説明しています。³

この社内活用の成果（コスト・工数削減、品質平準化、新入社員でも一定水準で業務可能等）への反響を受け、新会社を設立して外部提供へ踏み切った、というストーリーです。 ¹⁸

主要イベントのタイムライン (mermaid)

timeline

title Genzo AI (会社・プロダクト) 主要イベント (公表ベース)

2023 : 島津製作所 知的財産部が社内向けに「Genzo AI」を開発・活用開始

2025 : 社内活用により、外部コスト削減・工数削減等の効果を公表 (年度表記)

2026-03-25 : 島津製作所が子会社設立と外販開始を発表

2026-04-01 : 株式会社Genzo AI 設立予定 (島津90%出資)

2026-04 : コアモジュール提供開始 (公式サイト記載)

2030 : 売上高15億円・導入320社 (販売目標) を掲げる

上記の出典は島津プレスリリースおよび公式サイト記載 (提供開始時期) です。 ⁵

島津製作所との関係

資本・ガバナンス構造

島津製作所が90%を出資し、所在も島津製作所本社内に置かれるため、ガバナンス上は島津が支配株主として経営統制を持つ構造です (※法的な連結区分の断定は、IR上の連結範囲開示で要確認)。 ³

取締役にはIP Agent側の代表者が営業担当として入り、島津知財部長が社外取締役として参加する体制が明示されています。 ³

技術移転・ノウハウ移植の実態 (公表からの推定)

島津は、当該プラットフォームを「当社知的財産部が独自で開発・運用してきた」ものとしており、社内で蓄積した“ベテランの思考プロセス (暗黙知) をAIプロンプトに変換する形式知化”が中核コンセプトと説明しています。 ³

この記述から合理的に推定される移転対象は、ソフトウェアそのものだけでなく、(a) 業務フロー設計、(b) 生成AI向けのプロンプト/テンプレート体系、(c) 実務判断基準 (例: 拒絶理由通知への応答案形成のフレーム)、(d) 導入・教育手順といった「実務知」一式です (推定)。 ⁵

他方で、(1) 島津の社内データ (既存明細書・翻訳等) がどの程度“学習/参照”に使われているか、(2) モデルのファインチューニングやRAGの利用有無、(3) どこまで汎用化して提供するか、は公表情報だけでは特定できません (未公表)。 ¹⁹

関係主体のER図 (mermaid)

erDiagram

```
SHIMADZU_CORP ||--o{ GENZO_AI_CO : "owns 90%"
IP_AGENT_CO ||--o{ GENZO_AI_CO : "owns 10% / sales"
GENZO_AI_CO ||--o{ CUSTOMER_ORG : "provides SaaS"
GENZO_AI_CO }o--o{ PATENTFIELD : "FTO integration"
GENZO_AI_CO }o--o{ OPENAI : "uses API"
GENZO_AI_CO }o--o{ GOOGLE_GEMINI : "uses API"
GENZO_AI_CO }o--o{ AWS_JAPAN : "stores data"
```

出資比率や連携（FTO、API利用、国内AWS保存）は島津プレスリリースおよび公式サイトの記事に基づきます。⁶

プロダクト分析

位置づけ：Human-in-the-Loop前提の“実務直結型”プラットフォーム

公式サイトは、Genzo AIを「単なる自動化ツールではなく、AIと人が協働する実務直結型プラットフォーム」と位置づけ、AI提案を実務者が確認・修正する前提で設計していると述べています。²⁰

これは、生成AIの不確実性（誤り・幻覚）を“工程設計”で吸収し、知財のような高リスク領域での運用可能性を高める設計思想と解釈できます（分析）。²¹

モジュール構成と自動化ワークフロー（公表仕様）

公式サイト上で示されているモジュールは少なくとも6つで、知財部門の中核業務（発明創出～出願・翻訳～審査対応～侵害予防～契約）を直列にカバーする構成です。²²

モジュール	主対象業務	典型インプット（例）	典型アウトプット（例）	重要ポイント（公表範囲）
MODULE 01	発明届出・明細書作成支援	発明内容/メモ	文案・構成案（想定）	“発明・発掘に関する明細書作成”を対象に含む。 ⁵
MODULE 02	特許翻訳	原稿（JP/EN等）	翻訳案	“特許翻訳”を対象に含む。 ⁵
MODULE 03	中間処理（拒絶理由通知対応）	拒絶理由通知書、出願情報	反論骨子・補正案（想定）	“対応案を論理的に構築、審査官判断を評価、補正案提示”と記載。 ²¹
MODULE 04	先行文献調査	技術説明、出願ドラフト等	特許性判断の結果（想定）	“特許性判断の結果を出力”と記載。 ²⁰
MODULE 05	FTO（侵害予防）	開発資料+国選択	検索～一次スクリーニング結果	Patentfield株式会社 ²³ 連携で検索～一次スクリーニングを「全自動」と記載。 ²⁰
MODULE 06	契約書レビュー	契約書案、メールPDF等	不利条項指摘・修正案	“簡易アンケート→不利条項指摘と修正案自動生成”と記載。 ²⁰

上表は、公式サイト記載の範囲で整理したものであり、各モジュールの「精度・適用範囲・例外処理（法域差、技術分野差）」は未公表です（未公表）。²¹

AI/ML技術の主張：LLM API+プロンプト資産（形式知化）

公式の「データ保護」ページは、バックエンドとしてOpenAI²⁴のOpenAI API（ChatGPT）およびGoogle²⁵のGoogle Gemini APIを使用すると明記しています。⁷

また島津は「暗黙知をAIプロンプトに変換する形式知化」を進めたとし、プロンプト設計・テンプレートを“ノウハウ資産”として体系化していることを示唆しています。³

現時点では、学習（ファインチューニング）やRAG等の具体的アーキテクチャは明示されていないため、外形上は「LLM APIを用いた生成支援+（顧客/組織固有の）プロンプト・ワークフロー設計」が中核と見るのが妥当です（推定）。²⁶

インテグレーション：Patentfield連携が“侵害予防”の基盤

FTO（侵害予防）モジュールについて、公式サイトは「開発資料をドロップし国を選択すると、Patentfield連携で検索から一次スクリーニングまで全自動」と記載しています。²⁰

この設計の場合、Genzo AIの価値は「(1) 入力資料から調査クエリ化する工程」「(2) 検索母集団に対する一次判定（スクリーニング）」「(3) レポート化/判断支援」に寄る一方、検索データ基盤と基本検索機能はPatentfield側の品質・可用性に依存します（分析）。²⁷

セキュリティ・プライバシー：主張と第三者仕様の突合

公式ページは、(a) 入力情報をモデル学習等の二次利用に使用しないことをベンダー契約で義務付け、(b) 不正利用防止目的に限り送信データが最大30日保持され得るが自動削除されモデル改善には使われない、(c) 顧客データは国内AWSに保存されOpenAI/Googleサーバーに残らない、(d) 運営担当者でも顧客データにアクセスできない設計、(e) ユーザー主導で完全削除可能、と述べています。⁷

一方、APIベンダー側の一般仕様として、OpenAIは「API利用のabuse monitoring logsが最大30日保持され得る」旨を開示しています。²⁸

またGoogle Gemini APIの追加条項では、特定機能（例：Grounding）利用時に30日保持が生じ得る旨が示されています。²⁹

ここから導かれる実務上の論点は次の通りです（分析）。

(1) 「OpenAI/Googleサーバーに残らない」という主張は、“プロジェクトデータ（永続保存）”が残らない趣旨と整合し得る一方、APIログ等の短期保持（最大30日）の可能性は残るため、顧客側はDPA（データ処理契約）と運用（PII投入制限、マスキング、鍵管理）で補完する必要があります。³⁰

(2) 「運営担当者がアクセスできない設計」は強い主張で、鍵管理方式（KMS、カスタマー管理鍵の可否）、監査ログ、例外対応（障害対応時のbreak-glass手順）などの追加説明がないと、リスク評価は中程度に留まります（未公表）。⁷

料金モデル・提供形態

島津プレスリリースは、販売希望価格を「年間100万円～1500万円（税込）、企業規模に応じた基本料金および従量課金制、ID数無制限」としています。³

公式サイト側も「ユーザー数無制限」「年間契約のSaaS形式」を訴求しています。²⁰

ただし、従量課金の課金単位（トークン/処理回数/ドキュメント数/モジュール別等）や、機能別の標準パッケージ、最低利用期間、導入支援費用の有無は未公表です（未公表）。⁵

GTMと顧客

ターゲット：中堅・中小企業と大学・研究機関

島津は、提供先として「少人数で業務を担う中堅・中小企業」および「予算・人手不足に悩む大学・研究機関」を明示しています。³

神戸新聞も同様に、少人数体制の企業や大学・研究機関への販売、および2030年度売上高15億円目標を報じています。³¹

販売目標・売上目標

島津プレスリリースでは、導入社数（販売目標）を2026年度40社、2030年度320社とし、売上高目標は2030年度15億円と記載しています。³

この目標を価格レンジ（年100万～1500万円）と整合させると、(a) 中位価格帯での大量導入、または(b) 上位価格帯・高従量課金の比率増が必要となるため、オンボーディングの標準化と販売チャネルの拡張（直販＋パートナー）が収益の鍵になります（分析）。³

チャネルとパートナー仮説

共同設立パートナーであるIP Agentは、会社概要として特許調査・外国出願・特許翻訳等の知財サービスを掲げており、営業面の補完役であることが推測されます（推定）。³²

加えて、FTOでPatentfield連携が明示されているため、知財調査領域では「SaaS × 調査DB/検索プラットフォーム」の提携モデルを採用していると解釈できます。³³

導入事例・顧客名・パイロット

公表範囲では、社外導入の顧客名、ケーススタディ、ROI実績は確認できません（未公表）。⁵

一方、島津社内では効果数値を提示しており、これが最初の“参考事例（クライアントゼロ）”として位置づけられています。³

競合環境

競争軸の整理：Genzo AIが戦うレンジ

「知財業務自動化SaaS」という枠は、実際には複数カテゴリの重なりです（分析）。

- A. 生成AIによる特許文書作成・拒絶対応支援（ドラフティング/中間処理）
- B. 特許検索・分析・FTO支援（パテントアナリティクス/スクリーニング）
- C. 知財管理（期限・ステータス・年金/更新・案件管理）
- D. 契約書レビュー（リーガルテック領域）

Genzo AIはA+B+Dを前面に出し、C（いわゆるIPMS：期限・権利維持管理の基幹）については公表情報からは判断できません（未公表）。⁵

国内主要プレイヤー（日本）

知財領域では、同様に“自社の知財ノウハウ+AI”を外販する動きが出ています。代表例として日本電気株式会社³⁴（NEC）は、知財DX事業として、独自AIとRAGを採用したSaaS型ツールを2026年4月から提供開始し、先行技術調査・特許性判定・発明提案書/明細書作成などの自動化を掲げています。³⁵

また、生成AI×特許支援のプロダクトとして、株式会社AI Samurai³⁶は、特許調査・評価（クレームチャート自動生成等）と特許文書作成支援を訴求しています。³⁷

Tokkyo.Ai³⁸は、特許生成AIとAI類似検索を搭載した「プライベートAI特許」を月額2万円/ID（初期費用0円）として価格を明示しています。³⁹

パテント・インテグレーション株式会社⁴⁰の「サマリア」系は、拒絶理由通知書の解析や意見書・補正書案作成支援を掲げ、株式会社root ip⁴¹の知財管理SaaS（案件・年金等）と連携した事例が公表されています。⁴²

さらにPatentfieldは、特許検索・分析プラットフォームに生成AIオプション（AIR）を組み込み、査読・分析時間の短縮を謳い、料金プランも公開しています。⁴³

グローバル競合（IPMS/IPデータベース大手）

グローバルには、IP管理（IPMS）と検索・分析（DB）で大手が存在します。代表として、Anaqua⁴⁴のAQXは、特許・商標のライフサイクル管理を単一プラットフォームで提供し、AIによる自動化にも言及しています。⁴⁵

Clarivate⁴⁶は、FoundationIP等のIP管理ソフト群やDerwentのAI特許検索/分析を提供し、AI検索（言語トランスフォーマーモデル利用）等を公表しています。⁴⁷

Questel⁴⁸はOrbit Intelligence（検索/分析）やEquinox（IPMS）を展開し、AIアシスタントやAI活用を訴求しています。⁴⁹

Denemeyer⁵⁰はDIAMS iQをIP管理ソフトとして提供し、ワークフロー/期限管理/文書管理などの統合を訴求します。⁵¹

PatSnap⁵²はAI駆動のIP分析・検索・FTO等を掲げ、料金ページ（セルフサーブ形態）も公開しています。⁵³

競合比較（機能・価格・技術の俯瞰）

以下は“公開情報ベース”での俯瞰比較であり、実際の提案範囲（カスタム開発、導入支援、精度、SLA）は個別見積りで変動します（注意）。⁵⁴

事業者/製品	強い領域（A～D）	価格の公開度	技術スタンス（公表範囲）	コメント
Genzo AI（本件）	A+B+D（Cは不明）	島津がレンジ公表	OpenAI/Gemini API+プロンプト資産、HITL	“知財部ベテラン思考の形式知化”を前面。 ⁶
NEC 知財DX（SaaS+コンサル）	A+B（+上流の可視化）	価格不明	独自AI+RAG、特許DB数値化	大企業知財のノウハウ外販で方向性が近い。 ³⁵
AI Samurai ONE/ZERO	A+B	価格不明	生成AI+独自DB、クレームチャート等	書類自動生成と調査・評価を統合。 ⁵⁵
Tokkyo.Ai（プライベートAI特許）	A+B（検索/ドラフト）	月額2万円/IDを公表	GPT-4o等複数生成AI、類似検索	低価格を前面。企業規模向け上位機能は要確認。 ⁵⁶
Patentfield / AIR	B（+一部A支援）	料金表あり	検索/分析+生成AIオプション	Genzo AIはFTOで連携。競合にも協業にもなり得る。 ⁵⁷
root ipクラウド+サマリア連携	C+A（拒絶対応）	一部実績数値公表（PR）	“案件管理×AI実務支援”連携	Genzo AIがC領域へ拡張する場合の競合。 ⁴²
Clarivate（FoundationIP/Derwent）	C+B	価格は基本要問合せ	AI検索（トランスフォーマー等）+大規模データ	大手基幹IPMS/DB。Genzoはニッチ（実務自動化）で差別化が必要。 ⁵⁸
Anaqua（AQX）	C（+サービスク統合）	要問合せ	IP管理の統合、AI自動化も言及	エンタープライズ寄り。 ⁴⁵

事業者/製品	強い領域 (A~D)	価格の公開度	技術スタンス (公表範囲)	コメント
Questel (Orbit/ Equinox)	B+C	要問合せ	AI支援を強調	既存IPエコシステムの“つながり”が強み。 59
Denemeyer (DIAMS iQ)	C	要問合せ	IPMS (期限・ワークフロー等)	“基幹”に強いが、生成AIによる文書自動化は別途。 51
PatSnap	B (+一部 A)	一部プラン公開	AI分析・検索・FTOを訴求	研究/技術情報寄りの広域プラットフォーム。 60

競合上の焦点は、(1) “知財部の実務自動化 (A・D)” で国内勢 (NEC・AI Samurai・サマリア系) とどう差別化するか、(2) “基幹IPMS (C)” の大手と住み分け/連携するか、(3) FTOで外部基盤 (Patentfield) を使う以上、価値の根拠を「ワークフロー設計」「スクリーニング精度」「レポート・意思決定支援」に置けるか、です (分析)。⁶¹

市場環境とトレンド

市場規模の見立て (グローバル)

「知財業務自動化SaaS」を厳密に切り出した公的統計は乏しく、一般には「IP管理ソフト (IPMS)」「知的財産ソフト (IP software)」「リーガルテック」の一部として推計されます (注意)。⁶²

調査会社サマリでは、例えば「Intellectual Property Management Software」市場について、2024年約123億ドル→2030年約248億ドル (CAGR約12.9%) という推計が示されています。⁶³

一方で別推計では、2025年約140.6億ドル→2034年約425.3億ドル (CAGR約13.09%) など、定義差により幅があります。⁶⁴

したがって実務上は「(a) 既存IPMSのクラウド移行+AI搭載」「(b) 生成AIによる特許/法務ドラフティング」「(c) 技術情報分析 (パテントインテリジェンス)」の合算的に市場が拡大している、と捉えるのが安全です (分析)。⁶⁵

日本市場の代理指標：特許情報提供サービス業界の規模

特許庁⁶⁶の委託調査レポート (令和元年度) では、「特許情報提供サービス業界」の市場規模が2015年度1,021億円、2018年度1,065億円と推計されています。⁶⁷

これは“知財自動化SaaS”そのものではありませんが、特許検索・分析・翻訳等を含む周辺産業の規模感として、国内で年間1,000億円程度の支出が存在することを示す代理指標になります (分析)。⁶⁸

需要ドライバー：出願件数の増加と業務複雑化

世界全体の特許出願は、世界知的所有権機関⁶⁹ (WIPO) によると2023年に355万件 (前年比+2.7%) と公表されています。⁷⁰

またWIPOは2024年の特許出願が370万件 (前年比+4.9%) に達したとするニュースも出しており、実体経済の変動があっても中期的に出願量が高水準で推移していることが分かります。⁷¹

日本についても、JPO Status Report 2025では2024年の特許出願件数が306,855件と示され、近年の推移が可視化されています。⁷²

この「件数の多さ」と、特許実務が (a) 技術と法律の二重専門性、(b) 多国展開、(c) FTOや契約まで含む経営判断、へと広がる傾向が、知財部門の省力化需要を押し上げていると考えられます（分析）。⁷³

規制・ガイドライン動向：AIガバナンスと安全性

日本では、AI専用法ではなく既存法（個人情報保護、著作権、不正競争等）とガイドラインでの対応が中心である、という整理が一般的です（概説）。⁷⁴

総務省・経産省の「AI事業者ガイドライン」概要は、AI開発・提供・利用時の基本的な考え方（ガバナンス、リスク対応、実践）を示す枠組みとして位置づけられています。⁷⁵

この文脈では、知財SaaSにおいても「データ管理」「説明責任」「セキュリティ」「人の関与」「継続的モニタリング」といった実装が求められ、Genzo AIの“Human-in-the-Loop”や“監視”の記載は、ガイドライン潮流と整合的です（分析）。⁷⁶

リスク、課題、戦略的含意

主なリスクと課題（技術・法務・事業）

第一に、生成AI特有の品質リスクです。中間処理（拒絶理由通知対応）や契約書レビューは、誤りが直接的な法務リスク（権利範囲の毀損、無効リスク、対外紛争、契約条件悪化）につながるため、HITL前提でも「どこまでAIに任せるか」の運用設計が導入の成否を左右します（分析）。²¹

第二に、データ・プライバシーとサプライチェーンリスクです。Genzo AIはOpenAI/Gemini APIの利用を明記しており、最大30日保持等の条件を含むため、顧客のセキュリティポリシー（特に大学・研究機関の機微情報）と整合させるための契約・設定・代替手段（ZDR、オンプレ/閉域等）の提示が必要になります（分析）。⁷⁷

第三に、競争の激化です。同様に知財部門のノウハウを外販するNECや、国内スタートアップ群（AI Samurai、Tokkyo.Ai、サマリア系）が既に市場教育を進めており、Genzo AIは“島津知財の実績”を差別化に使える一方、相対的に「プロダクトの汎用性」と「導入事例の外部提示」が追いつかなければ、比較検討で不利になり得ます（分析）。⁷⁸

第四に、知財領域の権利リスクそのものです。国内では、生成AI×特許情報サービスを巡る特許権侵害訴訟が提起された事例（当事者主張ベース）があり、機能が近接する領域ほど、特許クリアランスが重要になります（分析）。⁷⁹

島津製作所にとっての戦略的含意

島津にとってGenzo AIは、(1) 自社の知財部門の“プロセス資産（暗黙知→形式知）”を収益化する新規事業であり、(2) 知財人材不足・属人化という業界課題に対するソリューション提示で、(3) 自社内でも知財機能の高度化・標準化を促進するフィードバックループを形成し得ます（分析）。⁸⁰

一方で、島津ブランドで知財領域のAIを外販する以上、(a) セキュリティインシデント、(b) AI誤作動による顧客損害、(c) 知財紛争への巻き込まれは、レピュテーションリスクとして親会社へ波及しやすい点に留意が必要です（分析）。⁸¹

Exit/マネタイズのシナリオ（推定）

現時点でExit計画は公表されていません（未公表）。³

ただし一般的な企業内新規事業として、以下の複数シナリオが考えられます（推定）。

- 「島津グループ内での成長」：知財SaaSを島津のB2B顧客基盤へ横展開し、安定収益化（最も自然）。³
- 「知財サービス企業との提携・バンドル」：翻訳/出願/調査会社やIPMSベンダーと連携し、機能補完（C領域の穴埋め）を進める。⁸²
- 「スピンアウト/一部資本導入」：成長投資や海外展開を目的に外部資本を入れる（ただし島津90%支配からの変更が必要）。³

- 「M&A（リーガルテック/知財データベース側への売却）」：プロンプト資産とワークフローが差別化できれば、A・D領域の補完として買収対象になり得る。 83

追加調査の提案（次を取るべき手順）

公表情報だけでは“投資判断・採用判断に必要な裏取り”が不足しているため、次の一次情報を優先収集するのが合理的です。

- 設立後の登記情報（法人番号、役員、目的、公告方法）と、親会社IRでの連結区分の確認。 84
- 製品仕様書（機能一覧、例外処理、対応国、対応ドキュメント形式、ログ/監査、SLA）。 22
- セキュリティ資料（SOC2/ISO等の取得状況、ペネトレーションテスト、鍵管理、データ削除の証跡、運用者アクセス不可の技術的根拠）。 85
- 精度評価（中間処理の提案品質、翻訳評価、FTO一次スクリーニングの偽陰性/偽陽性、契約レビューのカバレッジ）。 21
- 外部導入事例（大学/中小企業の実ROI、導入期間、利用頻度、失敗要因、継続率）。 3

会社・親会社に確認したい質問例（ヒアリング用クエリ）

- ・「ID数無制限＋従量課金」の従量単位は何か（トークン/文書/ワークフロー回数/モジュール別）。 3
- ・各モジュールの“人が必ず確認すべきポイント”をどのようにUI/権限/ログで担保しているか。 22
- ・OpenAI/Geminiの利用形態（ZDR可否、リージョン、Grounding等の利用有無、ログ保管と削除証跡）。 30
- ・「運営担当者が顧客データにアクセスできない設計」の具体（鍵は誰が保持？ break-glass運用は？ 監査証跡は？）。 7
- ・FTOでPatentfield連携する際の責任分界（検索漏れ、一次判定ミス、データ更新遅延、障害時の代替手段）。 86
- ・知財管理（期限管理/年金/外国代理人連携等）を将来どこまで内製するか、それとも既存IPMSと連携するか。 87

参考URL一覧（本レポートで参照した主な一次・準一次情報）

<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>

<https://www.genzo-ai.co.jp/>

<https://www.genzo-ai.co.jp/security.html>

<https://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/compact/202603/0020164603.shtml>

<https://gomuhouchi.com/industrial/74500/>

<https://ip-agent.com/company>

<https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/r01-report.pdf>

<https://www.jpo.go.jp/e/resources/report/statusreport/2025/index.html>

<https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2025/document/index/0101.pdf>

<https://www.wipo.int/web-publications/world-intellectual-property-indicators-2024-highlights/en/patents-highlights.html>

<https://www.wipo.int/en/web/ip-statistics/w/news/2024/world-intellectual-property-indicators-report-global-patent-filings-reach-record-high-in-2023>

<https://www.wipo.int/en/web/ip-statistics/w/news/2025/world-intellectual-property-indicators-global-patent-and-design-filings-reach-new-records-in-2024-trademarks-flat>

<https://developers.openai.com/api/docs/guides/your-data/>

<https://openai.com/enterprise-privacy/>

<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/zdr>

<https://ai.google.dev/gemini-api/terms>

https://jpn.nec.com/press/202601/20260119_01.html

<https://aisamurai.co.jp/>

<https://aisamurai.co.jp/aisamuraione/>

<https://aisamurai.co.jp/aisamuraizero/>

<https://www.tokkyo.ai/pvt/gpt/>

<https://www.tokkyo.ai/pvt/price/>

<https://www.tokkyo.ai/pvt/case/>

<https://patentfield.com/>

<https://product.patentfield.com/air>

<https://patentfield.com/pricing>

<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/api%E9%80%A3%E6%90%BA>

<https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000004.000166451.html>

<https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000008.000086119.html>

<https://www.anaqua.com/aqx-corporate/>

<https://www.anaqua.com/aqx-corporate/patent-management/>

<https://clarivate.com/intellectual-property/ip-management-software/foundationip/>

<https://clarivate.com/ja/news/clarivate-launches-ai-powered-patent-search-solution-in-derwent/>

<https://www.questel.com/equinox-is-industrys-first-ai-powered-ipms/>

<https://www.dennemeyer.com/ip-software/diams/>

<https://go.dennemeyer.com/ip-software/diamsiq>

<https://www.patsnap.com/products/analytics/>

<https://www.patsnap.com/pricing/>

<https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/intellectual-property-management-software-market-report>

<https://www.fortunebusinessinsights.com/industry-reports/intellectual-property-software-market-100330>

<https://www.technavio.com/report/intellectual-property-software-market-industry-analysis>

1 72 <https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2025/document/index/0101.pdf>

<https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2025/document/index/0101.pdf>

2 16 20 21 22 27 33 61 86 <https://www.genzo-ai.co.jp/>

<https://www.genzo-ai.co.jp/>

3 4 5 6 12 13 17 18 23 24 36 44 46 50 54 73 80 81 84 87 <https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>

<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>

7 11 19 26 30 34 41 76 77 85 <https://www.genzo-ai.co.jp/security.html>
<https://www.genzo-ai.co.jp/security.html>

8 28 <https://developers.openai.com/api/docs/guides/your-data/>
<https://developers.openai.com/api/docs/guides/your-data/>

9 40 48 62 63 65 66 <https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/intellectual-property-management-software-market-report>
<https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/intellectual-property-management-software-market-report>

10 45 <https://www.anaqua.com/aqx-corporate/>
<https://www.anaqua.com/aqx-corporate/>

14 15 47 58 83 <https://clarivate.com/intellectual-property/ip-management-software/foundationip/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/ip-management-software/foundationip/>

25 37 55 <https://aisamurai.co.jp/aisamuraione/>
<https://aisamurai.co.jp/aisamuraione/>

29 <https://ai.google.dev/gemini-api/terms>
<https://ai.google.dev/gemini-api/terms>

31 <https://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/compact/202603/0020164603.shtml>
<https://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/compact/202603/0020164603.shtml>

32 82 <https://ip-agent.com/company>
<https://ip-agent.com/company>

35 38 78 https://jpn.nec.com/press/202601/20260119_01.html
https://jpn.nec.com/press/202601/20260119_01.html

39 56 <https://www.tokkyo.ai/pvt/price/>
<https://www.tokkyo.ai/pvt/price/>

42 <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000004.000166451.html>
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000004.000166451.html>

43 57 <https://product.patentfield.com/air>
<https://product.patentfield.com/air>

49 59 <https://www.questel.com/equinox-is-industrys-first-ai-powered-ipms/>
<https://www.questel.com/equinox-is-industrys-first-ai-powered-ipms/>

51 <https://go.dennemeyer.com/ip-software/diamsiq>
<https://go.dennemeyer.com/ip-software/diamsiq>

52 67 68 <https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/r01-report.pdf>
<https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/r01-report.pdf>

53 60 69 <https://www.patsnap.com/products/analytics/>
<https://www.patsnap.com/products/analytics/>

64 <https://www.fortunebusinessinsights.com/industry-reports/intellectual-property-software-market-100330>
<https://www.fortunebusinessinsights.com/industry-reports/intellectual-property-software-market-100330>

70 <https://www.wipo.int/web-publications/world-intellectual-property-indicators-2024-highlights/en/patents-highlights.html>
<https://www.wipo.int/web-publications/world-intellectual-property-indicators-2024-highlights/en/patents-highlights.html>

71 <https://www.wipo.int/en/web/ip-statistics/w/news/2025/world-intellectual-property-indicators-global-patent-and-design-filings-reach-new-records-in-2024-trademarks-flat>
<https://www.wipo.int/en/web/ip-statistics/w/news/2025/world-intellectual-property-indicators-global-patent-and-design-filings-reach-new-records-in-2024-trademarks-flat>

74 75 https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20250328_2.pdf
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20250328_2.pdf

79 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000086119.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000086119.html>